

ATHENAプログラムとその後の発展について

研究者の女性比率は増加の傾向にはありますが、物理学の分野ではかなり低い状態が続いています。日本物理学会の場合、会員の女性比率は6%、20代の会員でも10%程度であり、物理学を目指す女性を発掘できていない状況です。また女性研究者比率はアジアにおいて一部を除いて低い傾向にあり、教育・研究環境が総体的に恵まれている日本が、アジア圏の女性研究者と連携できる部分はあると考えられます。

男女共同参画推進委員会としては、アジア地域の女性研究者との交流を図ってきました。特に、2013年には、Association of Asia Pacific Physical Societies (AAPPS) 主催の第12回アジア太平洋物理学会 (APPC12) が千葉幕張メッセで開催されましたが、この際にATHENA (アテナ) プログラム (Acceleration of Theoretical and Experimental Research Networking for Career Advancement of Women in Physics アジア太平洋地区の女性院生・若手研究者を日本の研究施設に受け入れる事業) として、海外女性研究者を招聘するプログラムの設立を呼びかけました。これに呼応して、核融合研究所、大阪大学極限量子科学研究センター、高エネルギー加速器研究機構、日本原子力研究開発機構、東京大学物性研究所等で女性研究者の招聘が行われました。

高エネルギー加速器研究機構 (KEK) ではこの招聘をきっかけに、海外若手女性研究者受入れ事業 (ATHENA プログラム) を行っており、KEKの職員による海外若手女性研究者の招聘を奨励しています。現在までに5名のアジア研究者を招聘しており、平成28年度も2名の大学院生の招聘を行いました。

物理学会の呼びかけで設けられたプログラムであることから、2017年2月17日、3月1日に本会の藤井会長 (第72期) が同機構を訪問し、招聘された研究者と懇談を行いました。

今回招聘された研究者のうち、Tran Kim Tuyet さん (ハノイ大学院修士2年、ベトナム) は放射線計測技術の実習のために佐波俊哉先生の受け入れで来訪しました。液体シンチレータを用いた放射線計測にとり組み、中性子の飛行時間測定と粒子弁別の実習を行いました。また、ATF、STFなどのKEKにある先端加速器の見学、KEKの総合研究大学院大学加速器科学専攻の講義を受講しました。Tuyetさんはこのプログラムを、かつて2013年のATHENAプログラムで来訪し、現在は総合研究

大学院大学の学生としてKEKで研究をしている Tran Nguyen Thun Ngan さんから知ったということです。また、SungHee Lee さん (プサン国立大学院修士2年、韓国) はKEKの放射光施設を利用して、光機能的金属錯体分子の反応中心構造を可視化することで、その機能的の発現機構を明らかにする研究に携わっており、今回はこの研究の一環として野澤俊介先生の受け入れで来訪しました。藤井会長はこの2名の研究者それぞれと研究並び大学院生活等について意見を交わし、実験のセットアップを見学しました。

日本物理学会では今後ともアジアの研究者との交流を図っていきます。男女共同参画推進委員会では、日本に招聘されるアジアの若手女性研究者を定期的に紹介する企画を行います。話題提供いただける研究機関はご連絡いただくと幸いです。

(文責：野尻美保子、
2017年5月29日原稿受付)



図1 藤井会長 (当時) に実験装置の説明をする Tran Kim Tuyet さん。(KEK 提供)



図2 藤井会長 (当時、中央左) と SungHee Lee さん (中央右)。右は受け入れ教員の野澤俊介先生。左は男女共同参画推進委員会委員長の野尻美保子氏 (KEK)。(KEK 提供)